

ノートルダム清心女子大学国際教育研究会 ニュースレター

特集「平和の未来 DAY2022」 2022 年 7 月

「平和の未来 DAY2022」開催

2022 年 7 月下旬にノートルダム清心女子大学国際教育研究会（以下、国際教育研究会という）が「平和の未来 DAY2022」を開催しますのでお知らせいたします。

🌸「平和の未来 DAY」開催について

「平和の未来 DAY」は国際教育研究会が 2018 年から始めています。

毎年、岡山空襲のあった 6 月は、世界の戦争や紛争の歴史を振り返りながら平和を祈る機会とし、7 月には、平和を希求しこれからの持続可能な社会に向けて歩む精神の支えとなるような集いを開催することになっています。



🌸「平和の未来 DAY2022」について

今年は 7 月末に、青山新吾ノートルダム清心女子大学国際教育研究会副会長により特別講義を開催します。

さらに、新企画として、本学教職員や国際教育研究会メンバーら有志の方々に、「平和の未来 DAY」に

①聞きたい曲 ②おすすめの図書 を推薦していただきました。

ノートルダム清心女子大学国際教育研究会 会長 西井麻美

「平和の未来 DAY2022」特別講義

「インクルーシブな発想 ～見えないものを見ようとする努力～」

講師：青山新吾

（ノートルダム清心女子大学国際教育研究会副会長 児童学科准教授 インクルーシブ教育研究センター長）

毎年 4 月 2 日に行われる世界自閉症啓発デー。世界中で、癒やしの色ブルーに点灯された多くの場所から、自閉症のある子どもたち、大人の方々への思いを馳せる時間が流れる。

本学も、2021 年度から、学長のリーダーシップの元、この「ブルーライトアップ」に参加するようになった。今年度は児童学科の有志学生を中心に、NPO 法人岡山県自閉症協会とのコラボレーションを展開。エキチカでのストリートピアノ演奏、本学ノートルダムホール前でのミニ演奏とインタビューの動画撮影、LINE スタンプづくりとその販売といった学生の動きへとつながった。

私も早いもので、自閉症のある方々やそのご家族と一緒に過ごし、一緒に考える様になって 34 年が過ぎた。その間、私は一体何をしてきたのだろうか。そして、何か成し得たことはあるのだろうか。

インクルーシブ教育とは、誰一人取り残されない社会をつくるための基盤となる教育。

インクルーシブ教育とは、そのような教育を目指してほんのちょっとずつでも前進する絶えざる追究過程なのだと思う。そして、その追究過程は、見えないものを見ようとする努力の過程なのかもしれない。

本講義では、「エピソード語り」を通して、見えないものを見ようとする努力の過程を皆さん方と一緒に考えてみたい。

「平和の未来 DAY2022」に聞きたい曲・おすすめの図書

「平和の未来 DAY2022」に①聞きたい曲 ②おすすめの図書について、有志の方々が推薦してくださいました。おすすめの理由も合わせてどうぞご覧ください。

加藤浩水（国際教育研究会アドバイザー 在リオデジャネイロ）

①「ウイーン、我が夢の町」

✿我が故郷のウイーン、平和で、町を愛し、自由を愛する人が暮らすウイーン、聞いている内に、しみじみ平和の有り難さに満たされます。人とは、自分の故郷を誰しも持っていて、平和に過ごしていただける有り難さを忘れてはならないことを、つくづく感じさせられる唄です。

誰の訳か知らないですが、歌詞も素晴らしいのです。

②『聖書』（“初めに言葉ありき”の箇所）

✿言語が違うからこそ、我々人類は、相手の言うことを理解しお互い共通点を見つけ確認し、相互信頼を生み出すことこそ、神様の示された途で、この道の他に、現代の、戦争、独裁・独断、社会不安、不公平、を取り除く近道はないと思います。

又、ウクライナの惨状を見るにつけ、神様は、まったく言葉が通じ合えない人間を創り出し、お互い努力して意思を疎通して、共に、平和で安心して生きていけるかを、今、試していただろうと思えてならないのです。だから、聖書をあらためて、今の世界の情勢に基づいて勉強し直したいと考えたからです。

白砂伸夫（国際教育研究会相談役 神戸国際大学経済学部教授 倉敷芸術科学大学学長補佐）

①「第九交響曲」ベートーヴェン

“神の計画により 太陽が喜ばしく天空を駆け巡るように

兄弟たちよ、自らの道を進め 英雄のように喜ばしく勝利を目指せ”

✿苦悩の世界を生きたベートーヴェンが、その苦悩を乗り越え、音楽という芸術を通して、未来への希望を全世界の人々に訴えている。ウクライナの人々とこの歌を歌える時が来ることを希求します。

②『土と内臓 ―微生物がつくる世界』デイビッド・モンゴメリー／アン・ビグレー

✿人間と細菌の関係は敵対する関係ではなく、細菌は人間に必要な免疫などのさまざまな機能を担っていることが明らかにされている。

例えば人間の細胞のエネルギー生産を司るミトコンドリアは、他の細菌が細胞内に取り込まれたものが人間の一部として機能しているのであり、人体は細菌との共生なしには、生きていくことができない。

ウイルスさえ生物の進化に関わっていることもわかってきていて、地球全体が1つの生命体のように振る舞っているという。

富岡美佳（岡山中央病院 ウィミズメディカルセンター企画室長 本学非常勤講師）

①「Hey 和」ゆず

②『地球・生命の大進化 46億年の物語【大人のための図鑑】』田近英一

✿私たちが今ここにいる不思議を感じる地球の歴史が気に入ってよく眺めます。

片山裕之（本学児童学科）

②『たいせつなもの』『信じる「愛」を持っていますか』渡辺和子

－目に見えないけれど大切なもの あなたの心に安らぎと強さを－ 2003/11/4

✿この本の中の「時間どろぼう」の部分が、教育の根本を感じるのです。



治部眞理（国際教育研究会相談役）

①「Le Chant de Fontenay」 Iégor Reznikoff

✿ Desmond Seward は、“MONKS AND WINE”に「修道院による全歴史の中で最も輝かしい功績は、シトー会がブルゴーニュでクロ・ド・ヴージョをひらいたことであろう。」と記している。

この“MONKS AND WINE”の訳書を読んだのは、フォントネー修道院に行く少し前だった。「朝倉文市」先生という翻訳者の名前を見て驚くと共に、わが母校を懐かしく思った。このフォントネー修道院で録音されたグレゴリオ聖歌集だ。

②『深淵の色は佐川幸義伝』 津本陽

✿ とある人から、大東流合気柔術宗範佐川幸義先生について聞かれたことがきっかけで、歴史小説家津本陽氏の最後の作品となったこの史伝を手にした。この本に引用されている佐川道場の道場訓「宇宙天地森羅万象のすべては融和調和によりて円満に滞りなく動じているのである。その調和が合気なのである」を思いだした。私が入門を許されたのは、1991年のこと、先生のお姿を最後に目にしたのは3年後の1994年である。この史伝の中には、津本氏が先生から直接聞かれた話、弟子たちの日記、亡き後先生の残された書簡にある先生の言葉があるが、私には先生が実際に語ってくださるかのように聞こえた。日常生活にあるすべての所作に合気を磨く要素があると考え、鍛錬や研究を重ねらえた佐川先生の哲学に再び触れ、自分の日常の姿勢を律するきっかけを与えてくれた本だ。

ジェイソン・ウィリアムズ（国際教育研究会副会長 本学英語教育センター）

①「Peace Train」 Cat Stevens

✿ 「平和はすぐそこ」という意味の歌です。とても希望的な歌詞があります。

「Turn! Turn! Turn! (To Everything There is a Season)」 The Byrds

✿ 歌詞は旧約聖書の「コヘレトの言葉」に基づいています。(Ecclesiastes 3:1-8)

A time to gain, a time to lose 手に入れる時、失う時。

A time to rend, a time to sew 引き裂く時、縫い合わせる時。

A time for love, a time for hate 愛する時、憎む時。

A time for peace, I swear it's not too late! 平和の時。まだ遅くはないと誓う。

②『Ferdinand』 Munro Leaf - about taking a peaceful approach to life

『The Butter Battle Book』 Dr. Seuss - a cautionary tale about the importance of respecting differences

✿ These are children's books. It is important to teach about peace from an early age.

森泰三（本学現代社会学科）

①「ウージの唄」 かりゆし58

「島唄」 THE BOOM

✿ 「ウージの唄」、「島唄」：マスコミで報道されたように、今年2022年は、沖縄の本土復帰50年です。これらは沖縄を歌っています。どちらもウージ（サトウキビ）が歌詞にあり、ウージの広がる平和な島で、第二次世界大戦では、地上戦が行われたくさんの人命が失われたことを考えることができます。

②『ヒロシマ平和学を問う』 広島大学総合科学部編 水羽信男

『(増補改訂版) 最新世界情勢地図』 パスカル・ボニファス他

✿ 「ヒロシマ平和学を問う」は、戦前、戦中、原爆投下、戦後の広島について、多様な視点から戦争と平和について考えることができます。

「最新世界情勢地図」は、世界の国々の出生率、宗教紛争、国際犯罪、核兵器、石油・ガスの産出地、自然破壊、水資源の争奪などをテーマに、統計を基に地図で示されています。地図は空間情報を可視化することができます。軍事だけでなく、資源や経済などの視点から安全保障を考えることができます。

深谷信介（本学人間生活学科）

①「カノン ニ長調 Canon in D」パッヘルベル(Johann Pachelbel)

②『ちんろろきしし』 元永定正

✿ ゆるりと自然体、そんな時に誘ってくれるもの。

西隆太郎（本学児童学科）

①「World Citizen」 Ryuichi Sakamoto & David Sylvian

✿ “World Citizen”は、イラク戦争に抗して書かれた曲です。

“人権を奪われた人たちの声が聞き届けられなければ／言葉への信頼は失われてしまう／彼らの世界は苦しんでいる／ぼくらの世界が苦しんでいる／ただ一つの命も奪わせない——ぼくの名において。”

②『モモちゃんとプー』 松谷みよ子

✿ 『モモちゃんとプー』は親子の日常を描いた物語ですが、戦争のことも語られています。「なぜ戦争を止めないのか」という、子どもからの問いに直面する物語です。世界の病理をただしていく上では、子どもの心、ファンタジー、そして問いに直面することのできる強さが、大切な役割を果たしていると私は思います。

小笠原ヒロ子（本学特別講義講師・非常勤講師 本学英文科卒業生）

①「We are the World」 マイケル・ジャクソン／ライオネル・リッチー

✿ ウクライナ、新疆ウイグル自治区、ミャンマー、パレスチナ、南スーダン、アフガニスタンとリストはずっと続きます。そのような世界情勢の中、この歌は、市民が、お互いを思い遣り、助け合い、よりよい世界を自分たちの意志で作ろうという精神にあふれているので、今回はこの曲を選びました。

②『アホは神の望み』 村上和夫

✿ 素直で正直、器が大きなアホであれ！

バイオテクノロジーの世界的権威がたどりついた究極の知恵

遺伝子工学の第一人者・村上和雄教授が、神様に好かれる「アホ」な生き方を提言します。

今の世の中、みな「少しでも早く」「少しでも賢く」「少しでも無駄なく」「少しでも損をしないように」と目先のことばかり気にしているのではないのでしょうか？ しかし、ほんとうは眼前のことにあまりとらわれず、アホ、ボンクラ、デクノボーといわれるぐらいに生きているほうが充実した幸福な人生をおくれるのかもしれない。

遺伝子工学の第一人者である筑波大学名誉教授の村上和雄氏が、自分の研究成果である遺伝子 ON の話、有名な科学者の逸話、大きな悲劇から立ち直りつつある方々の話などからさまざまな例をあげ、ほんとうに豊かで幸せな「神の望むアホな生き方」とはどんなもので、どのようにたどりつけばいいのかを語ります。

土居裕士（本学児童学科）

①「青空」 THE BLUE HEARTS

✿ “生まれた所や皮膚や目の色でいったいこの僕の何がわかるというのだろう”

この曲が発売されてから随分経ちます。平和という意味でも多様性が尊重される社会という意味でも、メッセージが伝わりと良いなと思います。

②『アーモンド』 ソン・ウォンピョン

✿ わかり合うことには、痛みが伴うのかもしれない。

それでも、わかり合いたいと思います。

そんな気持ちになる一冊です。



加藤裕子（本学英語教育センター）

①「イマジン」 ジョン・レノン

「風に吹かれて」 ボブ・ディラン

🌸 どちらも世界平和を願って作られた曲で、この2つを挙げさせていただきます。

西井麻美（国際教育研究会会長 本学児童学科）

①「荒城の月」 土井晩翠／滝廉太郎

🌸 この曲を選んだ経緯をお話ししましょう。2011年3月、科研の調査で、関東にいた共同研究者とブラジルに向けて成田空港から渡航しようとしていた時、東日本大震災が起きました。でも、岡山は、全く普段と変わらなかったのか、何が起こったのか、よくわからないまま、新幹線に乗りました。

しかし、東京に着くと、新幹線以外の一般の電車は全く動いておらず、夜になり、東京の町は、明かりが消え、見たことも無い不気味な暗闇に包まれていました。

関東に居た同行の方は、地震が発生したときバスに乗っていて、急停車し、自宅のマンションは、停電したままだと言いました。

奇跡的に、成田空港まで行くことが出来たのですが、海外に行く飛行機は前日までの全便が欠航、キャンセル待ちの人々が長蛇の列になっていました。それでも、何とか飛行機は飛び立ちました。

海外に着いて見たTVでは、東日本大震災のニュースが大々的に流れていました。

地震直後、日本では、放送が抑制されていたようですが、海外では、生々しい映像が映し出され、原発事故についてもありのままが報道され、どんな危険が生じているかについても、包み隠さず伝えられていました。

私たちは、衝撃的な報道に大変なショックを受け、不安におののきましたが、科研の調査を続け、現地で調査のお世話をしてくださっていた加藤浩水氏が、夕食に誘ってくださいました。

リオデジャネイロの入り江に面した素敵なレストランでした。夜も遅かったので、私たちが最後の客になり、入り江の海はとても静かで、ポツカリとお月様も出ていて、落ち着いた雰囲気、東日本大震災への激しい不安を抑えて海外で調査を続けていた緊張の糸が切れてしまったのでしょうか。

「帰りたい・・・」と、同行の方が、ぽつりと言ひ、それを皮切りとして号泣し出しました。

閉店時間が来ても、涙は止まらなく、深夜が過ぎても、泣き続けていました。

でも、お店の方は、何も言わず、静かに私たちを見守ってくれていました。

そして、お店にあった生演奏をするピアノの蓋を開けて、演奏者が、日本の曲を弾き始めました。

「荒城の月」、「さくらさくら」・・・もう閉店時間をはるかに過ぎたレストランで、東日本大震災が襲った日本から来た私たちを包むかのように、優しく、優しく、繰り返し、繰り返し、演奏してくれました。

②『橋をつくるために 現代世界の諸問題をめぐる対話』 教皇フランシスコ／ドミニック・ヴォルトン

🌸 両者による1年間12回にわたる対談ロングインタビュー集ですが、その本の「はじめに」に、著者の一人ヴォルトンは、次のように記しています。

「なぜ対話なのか？ 対話することによって、他者に心を開き、論証することが可能になるから、読者の参加が可能となるからである。対話は、技術の成果やその限界を超えたところにある、人間のコミュニケーションに意味を与えるのだ。」

ノートルダム清心女子大学国際教育研究会 ニュースレター 特集「平和の未来 DAY2022」

2022年7月1日

発行：ノートルダム清心女子大学国際教育研究会 編集担当：西井麻美（学内写真）校正協力：土居裕士

〒700-8516 岡山市北区伊福町2丁目16-9 ノートルダム清心女子大学内

086-252-1155（代表）